

運動会前日の14日土曜日。青ちゃんと雄飛達は、標高2696メートルの北アルプス唐松岳の頂上にいました。朝のガスの立ち込める嫌な景色の中を歩き始め、八方尾根を通り八方池に着くあたりから、白馬三山が見え始め、2400メートルの丸山ケルンでは、予想に反して、北アルプスのハイライト、五竜岳 鹿島槍、白馬3山 不帰嶮などが、雲上に浮かぶ神秘的かつ、この時間帯では絶対に見れない光景が広がりました。まさに神々しい世界。更に頂上では、唐松岳頂上への稜線が、緑色にくっきりと天に向かって伸びていました。そして、下山中にはひょっこりライチョウに出会い、そして、極めつけは、下山してほっと空を見上げると、何と、ブロッケン現象とオーロラがミックスしたような虹が、空の真上（通常、虹は、山や川から伸びる）に現れたのです。

自然の持つスピリチュアルな1日でした。その前日13日の金曜日には、ガイヤシンフォニーの関係者に、そのスピリチュアルな話をたっぷり聞いた事もあり、その精神状態を引きずりながら、高ぶっていた自分がありました。

明日の運動会、台風の接近に伴い、天気は危ぶまれる という予報の中で、精神的に高ぶった気分で、眠りにつきました。

## 【運動会】

いつもの事ですが、大地の野外の行事の朝は、天候如何で実施が変わるので、その対応もあり、確実に午前2時には目を覚まします。特に、登山の朝は張りつめた気持ちになり、まさにアルプス最終キャンプから頂上アタックを目指す直前の状態のようなものです。ベランダへ出て、天気チェック。雨が降っておらず、ラッキー。今日の運動会は大丈夫！！。そして、インターネットで、詳細な天気図の分析。予報図を見ると、昨晚まで、今日の午前中は曇りだったのに、最新の予報図では、朝から雨、しかも9時は強い雨となっています。雨雲の予想図では、南から雲が9時ごろには張り出して来て雨が強く降る という予想。

午前4時。予報通り雨が降り出しました。そして、新しい建物の2階へ登り（籠り）東の空の雲の動きと空の状況を見ながら、2時間 瞑想と祈りをしました。空は、どんより雲が立ち込めるのではなく、明暗のある雲。しとしと降ったり止んだり。そして、これまでの人生や旅や冒険や登山の中で、このような天候での行動や実施決定の判断を、どれほどしてきただろう、最終的には、どのような判断材料で決定してきただろう ということをフォーカスしました。

1番大切なことは、今に生きる子ども達の精神状態に即する事。晴れだろうが雨だろうが、本来子どもたちは、常にポジティブです。雨が降ったら何もできない、雨が降れば中止 などという感情は、本来大人が持っているものであり、そのネガティブ感情が、子どもへ反映します。よって、雨が降っても動揺せず、自然を平穩に受け入れ、楽しむことが自然の摂理です。（ここでは、放射能の事は別にしておきましょう）

つまり、幼児たちは、大人とは違う今を生きるポジティブ健康精神を持ち合わせているのです。よって、「大人が雨でできないかもしれない」と言わない限り、当然の如く、予定されていることは、天気に関係なく期待状態の心です。

「てるてる坊主を作ろう」「作ったって無駄だよ」「どうして」「明日は雨だもの」「何で?」「だって、テレビやインターネットで、明日は雨だって言ったもの」「お母さんもそう言ったよ」…… ※水が引くような白けた雰囲気の流れ、誰も作らなくなる。。。。。

テレビやインターネットやデジカメ画像などを子どもたちに見せないのは、「人生をたかをくくって見てほしくないから」「どうせ 無理だと 未来に蓋をしてほしくないから」「やる前からあきらめて欲しくないから」「自然の流れは科学では割り切れないスピリチュアルな世界だから」「だから一発逆転 人生はおもしろい」というドラマがあるからです。

今の明るい空、時折降る小雨。この状態を見上げる子ども達なら、当然の如く、楽しみしていた運動会が行われると思っ

ているでしょう。（大人は最新機器でこれから雨が降ることを予想して、どうせ雨降り中止だと思ってしまう）  
古来の人達だったら、どうしてきたでしょう。きっと、最終的には、自分の運とこれまでの海千山千の乗りきってきた体験と直感と祈りではないでしょうか。

朝、7時。最終的な判断を下す時期が近づいてきました。この頃には、雨で、地面も濡れ始めた中、スロープで瞑想を続け、自分の中で決定できない怖れにフォーカス。それは、もし実施して、「途中で雨が激しく降ってきたらどうしよう」、「どうして雨だとわかっているのに実施したのか」「どうせ無理だとわかっていたのに」「風邪をひいたらどうするか」という 管理者 園長としての批判される怖れだったのです。

このぐずぐずした天気。思いきりザーと降ってくれたらスパッと中止できるのに などと迷走しながらの精神状態が続き、7時半。この迷わせる天候こそ、2つの分かれ道があったら、困難な道を選択しよう のポリンを生きる機会だ！

「子どもたちは、今 どんな気持ちで空を見上げているだろう、きっとこの天気なら当然期待しているだろう」（大人が余計なことを言わない限り）「テレビやネットがない時代だったら、当然てるてるぼうずの力を借りて、祈りながら実施しただろう」「そして、子どもの心に即した判断ならば、神様は味方してくれるだろう、批判なんか怖くない」

そして、最終的には、「昨日 一昨日からのスピリチュアルな自分の持つ運」を信じて、スロープの中央で、一人で判断して、妻に連絡網スタートの指示を出しました。それを、雄飛が 神妙に黙って聞いていた姿は、見逃しませんでした。彼は、この親のこれまでの決定へ至るまでの心境をどのようにとらえていただろうか と。彼も、生死にかかわる決定機会はたくさんあっただろうが。

それから、矢のようにテントを張り、運動会準備に取り掛かり、8時半。スロープのテントの中で、強く降り始めた雨を受けながら、もう動揺せず、この雨でしかできない環境設定やプログラムや内容を、著しく激しく湯水の如く湧き出るアイデアで練り始め、大地史上最高の、運動会にしてみようと意欲が高まりました。今までの人生を振り返ってみても、全てうまくいったパターンに似てきているし、数日前の、おえわの会でも、大地 OB の母親たちが「ハチャメチャで面白かった」「これが大地だ」「やはり、大地へ来るとエネルギーが高まる」「やった者勝ちですね」と皆、口をそろえて、当時は懐かしみ、現在もその気持ちで生きているとおっしゃっていたことを思い出した。

私達大地のできる事。この大人がネガティブな感情になりがちな天候の中で、子どもと同じ波長で、こどもたちを迎え入れ、当然の如く今を受け入れ楽しむ事。スロープを下って来た子どもたちのいつもと変わらない笑顔を見て、この決定が正しかった事の誇りを持ちました。

運動会の興奮は言うまでもありません。お父さんたち全員のハチャメチャな今を全力で楽しむエネルギーが全てを変えました。すごいです。

長男が終了後「俺だったら、あの判断はできない」「最初のわらべ歌では、皆ネガティブな雰囲気だったが、お父さんたちのかけっこで一気に雰囲気を変えた」と。父親として伝えたいことだった。「原始の純な子どもの気持ちに即そう」「最終的直観による判断は後悔しない」「最後まであきらめない」「人生は科学ではない」と。

